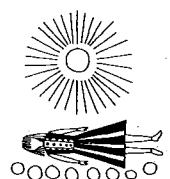


『1Q84』の「色即是空」と「空即是色」

——河合俊雄『村上春樹の「物語」夢テキストとして読み解く』

大澤真幸



本書を、一言で性格づけるならば、『1Q84』を中心とする村上春樹の小説を夢テキストと見なして、ユング心理学の手法で解釈した著作ということになるだろう。しかし、本書の魅力は、こうした要約には還元できないところにある。

第一に、『1Q84』が解釈の中心に置かれてはいるが、本書には、短編を含む多くの村上作品へのかなり立ち入った考察が含まれている。『1Q84』は、登場人物たちの過去や背景が詳述される等、村上作品としては例外的なものに見える。しかし、本書は、主要な村上作品を縦横無尽に参照しつつ、それらが『1Q84』へと収束していく必然性を論証しており、その手さばきは作家論としては例外的なものに見える。

第二に、本書には、歴史社会論としてのおもしろさがある。たとえば、本書の解釈によれば、夏目漱石がプレモダンから近代への移行を主題としたのに対し、村上春樹の作品はポストモダンな意識を反映している。ポストモダンへの脱皮は、しかし、プレモダンへの否定的回帰を伴うことになる。プレモダンな世界を支配した、「超越的なもの」、感覚を超えた「あちらの世界」が、失われたものとして、あるいは邪悪なものとして言及されることに

の関係の上に、互いにとつて理想的な男女の無意識像（アニメ像・アニムス像）が投影されており、二人の男女の関係があたかも四人の関係のように構成されている、という考え方である。たとえば、鍊金術師はソロル（妹）と呼ばれる助手との関係を通して、聖なる王と王妃の関係を実現する。

本書の読解によれば、「さきがけ」なる教団のリーダーとその娘ふかえりの関係が聖なるカップルに、主人公の天吾と青豆が生身の人間のカップルであり、天吾がふかえりに、青豆がリーダーに同時に関わることで、四位一体が形成されていく。この辺りの論証の緊張感と説得力は、直接本書を読んで味わってもらわなければならないが、結論的にはこのような対応が明らかにされる。重要なのはその先である。ユングにおいては、現実の男女の関係を通じて、超越的な無意識の関係を構成することが目指されている。『1Q84』では逆に、四位一体を経由する中で、聖なる関係の方が棄却され、現実的で人間的な男女の関係——青豆と天吾の恋愛——が切り結ばれる。

それならば、『1Q84』は、あちらの超越的な世界に行つて、現実に帰つてくる、というだけの物語なのか。そうで

なるのだ。『1Q84』の「リトル・ビープル」は、まさにそのような意味でのプレモダンの領域に属している。

そして第三に——これが最も重要な論点だが——、本書が行っているのは、『1Q84』等の村上の小説の筋や登場人物を、ユング派の図式に対応させるスタティックな作業とは違う。本書の読解によれば、確かに、村上作品はユング派の図式と対応してはいるのだが、そこに孕まれているダイナミズム、それが目指している運動の方向が、ユングの図式とは反対になつていて。村上作品は、ユング派の図式と、ねじれ対応しているのである。その意義は大きい。ユング派の図式に写像するだけならば、村上の小説を読まなくとも、ユングの理論を知ればよいといふことになるが、両者の孕む運動の方向に互いに反転しあう関係があることが示されることで、今度は、村上作品がユング派の理論に對して、批評的な価値を帯びるようになるのだ。『1Q84』を媒介にして、ユング派の理論の見えていかなかった可能性が発掘されている。

この点を最もよく示しているのが、『1Q84』の主要登場人物の布置を、ユングの「結婚の四位一体性」の概念と対応づける論脈である。結婚の四位一体性とは、意識的な男女

はない！ 本書が示すところによると、聖なる関係を通過することで、現実と超越の両方が特殊なやり方で肯定されるのだ。現実に對しては、こうした媒介がなければ両立できない矛盾した態度が共存する。一方では、現実それ自身が一種の仮構だとする相対化がなされ、他方では、その現実を「信じる」というコミットメントが引き出されるのである。

だから、本書で『1Q84』は壮大なメディーションに喻えられる。『1Q84』の三巻が描き出す過程は、仏教でいう「色即是空」（現実→超越といふ往相）と「空即是色」（超越→現実といふ還相）に対応してゐる。本書は、現代における物語に、このようなメディーションを引き起こす触媒としての機能を——プレモダンな社会では儀式が果たしていた機能を——見出しているのである。村上春樹論として、そしてユング派の心理学の書として、そして何よりも現代を生きる者の哲学の書として、本書は傑出してゐる。

（おおさわ・まさち 理論社会学者）

河合俊雄『村上春樹の「物語」夢テキストとして読み解く』

330861-4 8月31日発売

ケトル

最高に無駄が詰まつた
ワンテーママガジン

<http://www.ohatabooks.com/qjkettle/>

好評発売中